

基本方針	令和5年度達成目標	成果と課題(評価指標の結果も含めた成果、分析、評価、課題、対応)																																																	
<p>東京文化会館の基本方針は、以下のとおりである。</p> <p>【スローガン】</p> <p>より多くの人々に集い親しまれる劇場へ ～「音楽・舞台芸術の殿堂」＝響きあう感動をあらゆる人々と～</p> <p>開場以来60年間、「音楽・舞台芸術の殿堂」として多くの人々が当館を訪れ、愛され親しまれている。さらに、令和3年度からの指定管理期間では、培った制作力や国内外とのネットワークを生かした高い芸術性を担保しつつ、社会的課題にも取り組みながら、幅広く鑑賞の機会や若手の輩出、学びや体験の機会を提供し、あらゆる人々が感動を分かち合える劇場を目指す。</p> <p>【ステイトメント】</p> <p>○ 「音楽の入口体験から本格鑑賞・演奏への橋渡し」 高水準の舞台芸術を鑑賞されるお客様を大切にしつつ、音楽・舞台芸術の素晴らしさをより多くの方々に味わっていただく。</p> <p>○ 「参加交流」できる「広場」となり、「社会包摂」のための「居場所」となる 乳幼児から青少年、子育て世代、高齢者までのあらゆる世代、障害者、外国人等、様々な個性を有する方々のための拠点となる。</p> <p>【方針】</p> <p>① 「音楽・舞台芸術の殿堂」たる良質な公演の鑑賞機会を提供する。 ② 全国の文化施設をけん引する先駆的な自主事業を展開する。 ③ 建物の魅力を生かしつつ、あらゆる人々が利用しやすい施設管理、機能更新を行う。</p> <p>【取組】</p> <p>① 自主事業の積極的な展開 連動する創造発信、教育普及、人材育成の3本柱による自主事業の展開と国内外に向けた成果の還元 ② 貸館運営 戦略的な施設の出貸による世界最高水準の公演の提供、貸館公演との連携・協力による公益事業の実施 ③ 音楽資料室の運営 ④ 総合的な機能・魅力を発信する館運営 安全・安心の施設管理と舞台運営、バリアフリー・ユニバーサル化の推進、多言語化の推進、外部資金の導入、戦略的広報の取組、館の魅力の発信力強化・充実、地域連携の取組、職員の育成・スキルアップ</p> <table border="1" data-bbox="255 919 842 1171"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2年度実績値</th> <th>R3年度実績値</th> <th>R4年度実績値</th> <th>R5年度基準値</th> <th>R5年度目標値※3</th> <th>R5年度実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率:大ホール(%)</td> <td>45.4%(※1 92.8%)</td> <td>78.2%</td> <td>86.2%</td> <td>※2<90%></td> <td>86.0%</td> <td>94.0%</td> </tr> <tr> <td>稼働率:小ホール(%)</td> <td>48.1%(※1 80.7%)</td> <td>79.4%</td> <td>84.9%</td> <td>※2<80%></td> <td>78.0%</td> <td>85.2%</td> </tr> <tr> <td>自主事業入場者数(人)</td> <td>35,525</td> <td>44,398</td> <td>72,860</td> <td></td> <td>47,065</td> <td>78,586</td> </tr> <tr> <td>HPアクセス数(件)</td> <td>1,771,347</td> <td>2,226,202</td> <td>2,386,603</td> <td></td> <td></td> <td>2,395,337</td> </tr> <tr> <td>音楽資料室ウェブ閲覧数(件)</td> <td>138,420</td> <td>146,218</td> <td>177,180</td> <td></td> <td></td> <td>147,702</td> </tr> <tr> <td>メルマガ会員数(人)</td> <td>25,751</td> <td>26,574</td> <td>29,401</td> <td></td> <td></td> <td>32,401</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 コロナによるキャンセルを減算した場合 ※2 R5年度基準値は、提案書の基準値 ※3 R5年度目標値は、当該年度特有の事情を考慮した数値</p>		R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度基準値	R5年度目標値※3	R5年度実績値	稼働率:大ホール(%)	45.4%(※1 92.8%)	78.2%	86.2%	※2<90%>	86.0%	94.0%	稼働率:小ホール(%)	48.1%(※1 80.7%)	79.4%	84.9%	※2<80%>	78.0%	85.2%	自主事業入場者数(人)	35,525	44,398	72,860		47,065	78,586	HPアクセス数(件)	1,771,347	2,226,202	2,386,603			2,395,337	音楽資料室ウェブ閲覧数(件)	138,420	146,218	177,180			147,702	メルマガ会員数(人)	25,751	26,574	29,401			32,401	<p>音楽・舞台芸術の創造・発信</p> <p>1 舞台芸術の創造発信拠点として、既成の枠にとらわれず、新たな可能性を探索した作品を創造し発信する。国内外の一流の演出家や作曲家、出演者等との協働や国内外の劇場との連携を図り、質の高い創造とともに、新たな顧客の開拓、全国への幅広い成果の還元を図る。</p> <p>評価指標 オンライン・プログラム制作件数・アクセス件数 創造発信事業への初来館者数・25歳以下の割合</p> <p>2 新進音楽家等の専門人材の育成・支援</p> <p>「東京音楽コンクール」を一層充実させ、世界で活躍可能な才能を持つ新進・若手音楽家を発掘、主催事業に起用し、演奏機会を提供する等の支援を行い、芸術性・社会性を備えた芸術家へと育成していく。また、アートマネジメント人材や、教育普及プログラムを牽引するワークショップリーダーなど、制作や事業運営を支える専門人材の育成も進めていく。</p> <p>評価指標 各事業への東京音楽コンクール入賞者等の起用数</p> <p>3 次世代への音楽文化の継承と教育普及、社会包摂・社会的課題の解決に向けた取組の実施</p> <p>子供たちに音楽や舞台の喜び体験を通じ、豊かな感性を育む一助としつつ、音楽文化の次代への継承を図る。音楽への関心が低い層に対し、気軽に音楽・舞台芸術に触れる「入口体験」の機会を広く提供する。高齢者や障害者などに対し、豊かな感性やコミュニケーション、自己肯定感等を涵養し、生きる力を高める一助となるべく、手軽に音楽の楽しさを体験できる参加交流型のワークショップや、芸術家と直接触れ合うアウトリーチ活動等を積極的に実施する。</p> <p>評価指標 オンライン・プログラム制作件数・アクセス件数 シアター・デビュー・プログラムへの参加児童・学生数 障害者施設・高齢者施設の連携数</p> <p>4 質の高い鑑賞機会の提供</p> <p>国内外の最高水準の公演の誘致や自主事業の実施により、来場されるお客様に満足していただける公演ラインナップを提供する。実演団体等との公演日程調整等を的確・迅速に行い、継続した高い稼働率を目指す。特に大ホールは海外招聘公演が多く、感染症拡大だけでなく社会情勢の影響を受けるため、想定外の事態にも対応できる貸出体制を整える。また、施設設備のメンテナンスを万全にするとともに、感染症対策や配信を伴う公演形態への対応も含め確かな技術力とサービスで公演運営をサポートする。</p> <p>評価指標 稼働率</p> <p>5 ホスピタリティの充実と安全対策の強化</p> <p>誰にも優しく、安全安心な施設を目指し、バリアフリー化や多言語対応の取組を着実に推進していくとともに、危機管理や新型コロナウイルス感染症対策を徹底するなど、お客様への安全対策の強化を図っていく。</p> <p>評価指標 ホスピタリティ向上のための取組</p>	<p>■舞台芸術創造事業『曾根崎心中』・創作初演として実施。チケット完売(集客目標達成率117%)。『かぐや』・作曲委嘱初演として実施。読売新聞等でのレビュー掲載でも高評価であった(集客目標達成率104%)。 ■響の森(5月、1月)は、それぞれ1,915、1,803名の入場者となり、座席占有率で80%(2公演)を超える盛況となり、内容満足度でも95%(5月、1月)と目標を上回る成果。 ■オペラBOX…入場者数は523名となり、目標値の104%となった。</p> <p>オンライン・プログラム制作件数=2件、アクセス件数=0件 創造発信事業への初来館者数=23%、25歳以下の割合=9%</p> <p>■音コン…弦楽、ピアノ、木管部門を開催し、379名が応募(最終的に10名が入賞入選)。若手音楽家の発掘に貢献。2次予選以降は公開で約2,800名の聴衆が立ち会った。また、延べ204名のコンクール入賞者を主催事業で起用することで育成型コンクールの矜持を示した。課題は、国際コンクールとしての認知度、国外参加者の回復。 ■カーザ・ダムジカの来日時(7月、12月)を含め、通年でワークショップ・リーダー育成プログラムを実施。ポルトガルへの研修も実施し、一部WSでは、音コン入賞者も交えたプログラムも実施し育成型に相応しい構築をした。</p> <p>■「夏休み子ども音楽会」は大ホールでオケ公演を実施、2,186名の入場者となり、盛況であった。また、周辺施設へのパスポート参加者数も延べ3,067名に達した。 ■ワークショップ、アウトリーチは、予定通り、高品質な生の音楽体験を広く提供することができた。一般公開するWSでは、6,599名の参加者があった。 ■コンビビアル・プロジェクトはリラックスパフォーマンスを大ホールでオーケストラ公演として実施。また特別支援学校へのアウトリーチ、社会福祉施設へのアウトリーチなども予定通り実施している。</p> <p>オンライン・プログラム制作件数=2件、アクセス件数=0件 シアター・デビュー・プログラムへの参加児童・学生数(U25)=186名 障害者施設(特支13校)・社会福祉施設(2施設)の連携数=15施設</p> <p>■小ホールは国内アーティストの公演が主流なため安定して公演が開催された。一方の大ホールは国際情勢等の影響により、一部の海外招聘中止や公演内容の変更、日程縮小などが発生した。公演中止や日程縮小に伴う空き日には、国内の実演団体や企画団体と調整を図り、公演実施に繋げ、稼働率維持に努めた。 ■オペラでは、パレルモマツシモ劇場、ローマ歌劇場、ボローニャ歌劇場、パレエでは、英国ロイヤルパレエ、ル・グランガラ、パリ・オペラ座パレエなどの公演が開催され海外の最高水準の舞台芸術鑑賞の場となった。 ■昨年度末に舞台袖に開設したインターネット回線を活用し、公演配信を行う団体も増えており、今後も主催者ニーズを把握し公演運営のサポートを行う。</p> <p>■新型コロナウイルスの5類移行後は、消毒液の設置等基本的な感染症対策を継続しながら、バーカウンター等を通常営業に戻すなど、利用者・来館者の安全・安心を確保しつつ利便性の向上を図った。 ■手話言語条例の施行を受け、視覚・聴覚障害者の情報サポートを推進するため、緊急時サインや触知図の作成、バリアフリーマップのテキスト化(読み上げソフト対応)など、アクセシビリティの向上を図った。</p> <p>情報セキュリティに関する研修:2件 アクセシビリティ向上に関する研修:2件</p>
	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度基準値	R5年度目標値※3	R5年度実績値																																													
稼働率:大ホール(%)	45.4%(※1 92.8%)	78.2%	86.2%	※2<90%>	86.0%	94.0%																																													
稼働率:小ホール(%)	48.1%(※1 80.7%)	79.4%	84.9%	※2<80%>	78.0%	85.2%																																													
自主事業入場者数(人)	35,525	44,398	72,860		47,065	78,586																																													
HPアクセス数(件)	1,771,347	2,226,202	2,386,603			2,395,337																																													
音楽資料室ウェブ閲覧数(件)	138,420	146,218	177,180			147,702																																													
メルマガ会員数(人)	25,751	26,574	29,401			32,401																																													
総合的な所見(自己評価の総評)																																																			
<p>■国・都の指針に基づき、2023年5月7日付けで「東京文化会館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を廃止。5月8日以降、コロナ禍以前と同様の通常営業を再開し利用者サービスの向上に努めた。5類移行後も、引き続き日々の体調管理と手指消毒・手洗いなど基本的な感染防止対策を実施している。</p> <p>■日々の施設設備のメンテナンス及び月2回の保守点検を通じて、施設の維持管理を適切に行い、継続して快適なホール環境を提供した。また大規模改修工事に向け、都、財団総務部及び委託先設計事務所と、基本設計に係る協議を進めている。危機管理面においては、今回新たに小ホールからの火災を想定した自衛消防訓練を行い、有事の際の職員及び各館内事業者の役割を確認した。</p> <p>■貸館公演においては、国内アーティストの公演が安定して開催されており、コロナ禍前と比較しホール稼働率は概ね80～90%まで回復している。海外公演に関しては社会情勢の影響を受けつつも、ローマ歌劇場や英国ロイヤルパレエなど、世界最高水準の公演の鑑賞機会を提供した。また本年度より、東京二期会と共催しオペラの魅力を世界に発信する「Tokyo Opera Days」を当館にて初開催し、館内外でオペラに関連する様々なイベントを実施。毎年恒例の東京・春・音楽祭では、世界的な大指揮者リッカルド・ムーティを招いた「イタリア・オペラ・アカデミーin東京」が2年ぶりに開催されるなど、今後も「音楽の殿堂」にふさわしい音楽・舞台芸術公演を展開していく。</p> <p>■主催事業では、創造発信、人材育成、教育普及の3本柱を通じ多彩な事業を展開。メディアや登録者向けにメルマガジンを適時配信し、情報発信を行った。小ホールや登録者向けに開催される創造発信事業では、初めて純日本作品を取り上げた新作制作を行ったほか、2017年に初演し好評を博した若手支援事業を再演。「プラチナ・シリーズ」では野平一郎音楽監督の意向で、多種多様な音楽を通じ視野を広げるべくアイヌの民族音楽を取り上げ、作品・楽曲展開の幅を広げている。東京音楽コンクールでは、入国規制が廃止されたこともあり、海外からの申込みが回復。国際的に新たな人材を生み出す機会を提供することができた。教育普及事業では、様々な文化施設と連携し行うコンサートシリーズを継続的に実施し、コロナ前の賑わいを取り戻し、各所で多くの参加者を魅了した。加えて、複数の都内特別支援学校にて、国内トップクラスの楽団によるフルオーケストラ公演を実施し、全体として、音楽・舞台芸術の鑑賞機会を展開し牽引する文化施設としての役割を果たした。</p> <p>■2025年開催のデフリンピックに向け、財団として、あらゆる人が文化芸術を楽しめる環境を整備する「ウェルカムプロジェクト」を本年度より推進。3か年にわたる計画の1年目となる本年は、文化芸術鑑賞・参加に至るまでの環境を整える「情報サポート」を実施。当館専属スタッフによる職員研修を実施し、多様性の価値や手話言語に対する理解を深めたほか、緊急時サインや触知図の作成を進め、館内アクセシビリティの更なる向上を図った。</p> <p>■上野恩賜公園150周年記念祭典や、公園内の文化機関が連携し教育普及活動を行う「Museum Start あいうえの」の10周年企画事業に参画し、上野地域全体の活性化に貢献するとともに、館の魅力発信にも繋げた。</p> <p>■コロナ禍緩和に伴い、バーカウンターにおける飲料販売を再開するとともに、各ショップにおいては、新たな当館オリジナルグッズを制作する等営業努力がなされている。また、当館の歴史あるモダニズム建築を生かしたロケーション撮影にも都度対応し、安定した収益を確保している。</p>																																																			
外部評価 評価結果																																																			
AAAA	<p>■事業数や稼働率がコロナ前の水準を超える数に戻ってきたことにより、それぞれの項目において目標やビジョンを高次元で達成していることは素晴らしい(その分、制作・運営スタッフへの仕事の負担が非常に大きくなっているのではないかと心配だ。)。『創造・発信』の事業では「小ホール」の規模感で舞台芸術の新作を生み出していることが、この時代にとっても良く合ったコンセプトだと思う。これからはコンパクトで手軽に再演できるものが残っていくと思うので、この分野の佳作をさらに生み出して欲しい。また、東京文化会館ならではの「上野地域の文化施設・商業施設との連携」が、成果として見える形になってきた。新進音楽家の育成では、東京音楽コンクール入賞者の人材活用が継続されており安定した実績も確保できているが、活用範囲が劇場内のみならずもっと幅広く社会に開いていくような仕組みを今後は期待したい。ワークショップリーダーなど専門人材育成が充実していることは、東京文化会館の強みである。10年という節目を経て、ワークショップリーダー一修生たちにアート界だけでなく多様な場で活躍するための道筋を提供するなど、新たな展開も望まれる。</p> <p>■東京文化会館は、これまでの経緯からも国内外の大規模な公演拠点としてのニーズが高く、貸館公演が重要な柱となっている。大型公演だからこそ、社会情勢や景気に左右されがちであり、昨今の困難な国際情勢により影響を受けた公演企画が多数あったと報告された。そうした中でも複数の大規模な海外招聘公演が実現したことは関係者の大いなる努力の成果であった。観客や聴衆の期待に応えるべく、感染防止も継続しながら、安心安全な公演会場の提供に努められ、結果として事故無く公演が開催できたことは、大きな成果だと見える。主催事業の企画が海外での公演事業として、日本からの創造発信にもつながったことは素晴らしい。もっとその成果を広報してもよいのではないだろうか。さらに東京音楽コンクールは新しい才能の発掘のみならず、その才能を育み、開花させる機会を数多く提供しているという点からも、日本で最も重要なコンクールの一つになっていることは間違いない。育てたアーティストたちとの関係を大切にしている姿勢は今後も継続していただければと思う。また、野平音楽監督の方針が館の特色の一つとして成果をあげていかれることを願っている。教育普及事業を数多く展開されていることは、都を代表する館としてのあり方を示す姿勢として、大変素晴らしいと考える。一方で、活動実施のためには十分な人的体制と資金の確保が必須であり、都からのさらなる支援が必須となるであろう。</p> <p>■東京音楽コンクールでの人材発掘から始まり、入賞者のお披露目コンサート、そして「上野deクラシック」や「オペラBOX」への出演やソロコンサートへの支援など東京文化会館が行っている人材育成が成功していると思う。また、子供達への様々な角度からの音楽教育も素晴らしいと思う。</p> <p>■東京文化会館は、開場からの何十年か、戦後日本の高度経済成長期、そしてそのあとに蓄えられた豊かさを多少の紆余曲折はありながらも享受する成熟の時代と、ほほ歩みを一にして歴史を重ねて来たと言ってい。まさに「音楽・舞台芸術の殿堂」として、東京都下の小学校・中学校の音楽教育、区や市のレベルで供される芸術鑑賞の機会、あるいは市井の音楽教室、さらにもちろんテレビやラジオや種々のコンサート等々に上積みされるべき、高水準の公演を提供することに専念すれば、役目として事足りる頃合いが長かったのである。しかし50周年、60周年と年輪を重ねるにつれて世の中もだいぶ変化して来た。文化芸術のイメージも具体的内容も多様化の一途を辿り、クラシック音楽演奏、オペラ、パレエといったものの地位の特権性は自明でなくなってきたのが昨今の歴史と言える。東京文化会館は、そんな状況を見据えることなく、常に適切に時代の変化に即応しつつ、むしろ東京都を代表してあくまで公の立場で舞台芸術の振興を目指すホールとして、最大限の機能を2023年度も高く発揮してきた。時流にたがってニーズに応えるだけでなく、ニーズを絶望的に創造してゆく態度が観察されることは、どうしても消極的になりがちな時勢にあって、並大抵でないことである。ステイトメントとして掲げられている文言に含まれる「入口」橋渡し」「広場」「居場所」の4強は、文化芸術の持続可能性を込みにした展覧を具体化してゆくためのまさに根幹になる必須語句というべきものである。そういう線に沿った活動を深く自覚的に展開している東京文化会館は今日の公共ホールのありようの鏡というか理想を体現している。ポリシーのぶれない発展を願うものである。</p> <p>A: 目標を十分に達成し、成果を上げている B: 目標を概ね達成している C: 目標を十分に達成しておらず、改善が必要である</p>																																																		

基本方針		令和5年度達成目標							成果と課題(評価指標の結果も含めた成果、分析、評価、課題、対応)	
1 ミッション (1) 芸術文化の創造・発信の拠点 東京の音楽・舞台芸術を代表する顔として長期的な視点にたった作品創造と国内外への発信 (2) 人材育成の拠点 舞台芸術の現場をささえるプロフェッショナルの育成 (3) 教育普及の拠点 次代を担う子供たちへの本物の舞台芸術の伝達 (4) 賑わいの拠点 芸術の香りのする、誰にとっても楽しく賑わいのある空間の創出	1	○音楽・舞台芸術表現の可能性を探求する劇場 国内外の良質なオーケストラ公演、質の高い演奏家によるリサイタルや、現代音楽のフェスティバルなど、未来の音楽シーンを創造する事業を開催する。 また、世界主要都市の劇場との提携、海外著名演出家との協働、来日公演や海外公演など国際的な取り組みを行う。現代日本を代表する優れた舞台作品を東京から発信する。	読響との共催『マチネーシリーズ』継続によりオーケストラファンが芸術に定着、実力あるアーティストの共演という企画性が評価されたVS公演、7年目となった『ボンクリ・フェス』は世界の新しい音楽を紹介、かつ過去最高の入場者数を記録。芸術レパトリーとなった『エブリ・プリリアント・シング』待望の再演、性的マイノリティを通して社会を描いた大長編翻訳劇『インヘリタンス』上演など。『勸進帳』では、事前プロモーションとして木ノ下裕一氏と鈴木優人氏によるジャンル横断の古典をテーマに特別トーク配信企画を制作。アクセス件数計3,053回を記録、音楽・舞台芸術共に新しい作品創造とその発信にも力を入れた。							
		評価指標	音楽界・舞台芸術界での評価(公演評での高評価など)、オンライン・プログラム制作件数・アクセス件数、感染拡大防止策、ポストコロナでの創意工夫	フィルハーモニー・ド・パリ、アジア4都市の劇場連携による教育プログラムを実施、海外劇場との連携も活発に行った。22年ぶりの『太陽劇団』来日公演を実現、年末回顧にも多数掲載され内容も経済的にも大成功を収めた。他都市劇場作品の上演は計23回、北九州芸術劇場、穂の国とよはし芸術劇場、彩の国さいたま芸術劇場の作品を紹介。オペラの国内共同制作では、野村萬斎演出の『こもり』を全国3か所で行った。演劇の地方公演本数・公演回数は計5本、51回。『エブリ・プリリアント・シング』、木ノ下歌舞伎『勸進帳』、『天翔ける風に』、太陽劇団『金夢島』、『インヘリタンス』。国内外の劇場・音楽堂との交流を活発に行った。						
	2	○国内外の劇場・音楽堂との交流を活発化し、国際的な舞台芸術の拠点となる劇場 新文化戦略における海外発信プロジェクトを推進するため、国内外の大都市劇場と交流する共同事業の実施、数か国の劇場が参加する国際共同制作の実施、当館事業の海外公演による発信、優れた海外作品の招聘活動を行う。また、東京都公立文化施設協議会の活用による区市町村と都の協業を推進する。	10年目となるオーケストラ・アカデミーからは10人が卒団。芸術自主事業TACT FESTIVALには5名、サラダ音楽祭には9名、ボンクリには4名が参加、仙台フィルに1名が就職するなど、若手音楽家が巣立っている。芸術eye's事業の若手劇団参加数は5団体(ゆうめい、劇団た組、ピンク・リパティ、タカハ劇団、ほろびて)。演劇道場生は、「兎、波を走る」に15名、「天翔ける風に」に2名が参加。若手劇団・俳優の養成事業も充実させている。アーツアカデミーからは、制作者として公共劇場に1名が就職。若手アーティストや若手制作人材の育成を推進した。							
		評価指標	国内・国際的共同制作事業数、海外公演の入場者数、海外ホールとの提携数、他都市劇場作品の上演件数、地方公演の本数・公演回数	ファミリー向けフェスティバルとしては、サラダ音楽祭、TACT FESTIVALと多彩で豊富なプログラムを実施し、コロナ5類となり多くのファミリー層が来場した。『エブリ・プリリアント・シング』は29.1%が子供・若者の参加。0歳4歳は入場者数もコロナ前以上の実績となり、満足度も100%。定着した劇場ツアーは参加者789名。内はじめての来館者13.3%。満足度97.4%。バックステージツアー参加者数131人、満足度100%。大道芸同時開催のチャレンジ広場には199名の子供・若者が参加するなど、芸術文化を身近にしていける取組を推進した。						
	3	○若手アーティストや芸術の担い手を育成し、共に創造発信を行う劇場 東京芸術劇場の音楽家育成事業、演劇人育成事業の充実を図り、制作者の若手集団に発表の機会を提供する。研修コース、レクチャー、セミナー、他団体との連携を通じ、実演家、制作・舞台技術・マネジメント等の専門人材を育成し、担い手育成プロジェクトを推進する。	評価指標	芸術eye's事業の若手劇団参加数、ボンクリ、TACT、サラダ音楽祭及び自主事業全般における若手アーティスト参加数、人材育成事業からの劇場・オーケストラ等プロ組織への就職の人数						
4		○初めて舞台芸術に触れる子供や大人にも親しめる作品の創造の提供 多様な舞台作品の魅力味わってもらえるよう、フェスティバルなどの多彩なプログラムを展開するほか、本物の舞台芸術に初めて触れる来館者も楽しめる工夫をする。また、劇場ツアーを定期的実施して、舞台芸術の楽しさ、奥深さを伝え、芸術文化を身近なものにする。	評価指標	ファミリー向けフェスティバルの演目数、はじめて来館した人数・満足度、子供・若者の参加率、満足度、劇場ツアー・バックステージツアー参加者数、満足度						
5	○誰もが自由に出入りでき、一流の文化・芸術の香りを持つ劇場 芸術の多様性や、コミュニケーション能力の向上に効果的であることを活かして、年齢、障害の有無、国籍等属性を問わず誰もが芸術文化に触れることで、高齢化や共生社会など東京の社会課題の解決に向けた「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー」を推進していく。	評価指標	社会共生事業・鑑賞サポート事業・多文化共生・人材育成系事業の件数及び参加者数、満足度							
	6	○誰もが自由に出入りでき、一流の文化・芸術の香りを持つ劇場 芸術愛好家を満足させる質の高い舞台芸術を提供することに加え、幅広い層に訴求するプログラムを用意する戦略的貸館と首都圏に数多く存在する実力ある劇団や楽団・制作団体との共催・提携公演を実施できる劇場にする。また、劇場内で行われている公演についてレクチャーや楽しみ方のサポート(コンシェルジュ)をする。	評価指標	稼働率及び入場者総数、共催・提携公演の本数、各種演劇賞の獲得、劇場ツアー・バックステージツアー参加者数、満足度						
7	○日常的に新しい発見に出逢うことができ、ワクワクする感性に働きかける劇場 劇場前広場やアトリウム、ロワー広場を活用して賑わいを創出し、将来的に地域とも連携してマルシェ(市場)の創生を目指すとともに、館の事業全体の効果的な広報展開により劇場のプレゼンスを高めていく。地元池袋西口の教育機関である立教大学や、地元自治体の豊島区との連携事業を展開し、さらに地域の取組にも協力するなど、開かれた空間を創出する。	評価指標	劇場のツイッターのフォロワー数、YouTube芸術チャンネル登録者数、地域との連携事業数							
	7	○日常的に新しい発見に出逢うことができ、ワクワクする感性に働きかける劇場 地域団体との共催で、池袋モンパルナス回遊美術館、東京フラフェスタ in 池袋、ふくろ祭り・東京よさこい、池袋鉄道模型芸術祭、ジャズフェスなど、また、劇場を複合的に利用したフェスティバル開催時には、劇場前広場、グローバルリングと連携し、また、アトリウムやロワー広場も効果的に活用し、賑わいを創出した。X(旧Twitter)フォロワー数は、100,924と全国公共劇場の中でも最上位を堅持。YouTube芸術チャンネル登録者数4,920。新たに公式インスタグラムも開始し、事業全体の効果的な広報展開を行い、劇場のプレゼンスをアップした。								

	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度基準値 ※1	R5年度参考目標値 ※2	R5年度実績値
自主事業入場者数(人)	102,787	210,284	215,523		290,000	227,741
稼働率:大ホール(%)	57.9	78.9	83.9	<70.0>	52	76.8
稼働率:中ホール(%)	67.0	94.5	96.3	<87.0>	73	99.2
稼働率:小ホール1(%)	83.3	90.7	95.9	<96.0>	80	97.0
稼働率:小ホール2(%)	70.6	86.3	95.6	<94.0>	78	97.2
附帯事業収入(千円)	55,866	60,115	83,899			91,429
協賛金等獲得金額(千円)	176,997	155,572	186,353			102,568
HPアクセス件数	3,860,872	5,976,468	6,344,622			6,648,793

※1 R5年度基準値は、提案書の基準値
 ※2 R5年度参考目標値は、達成度を測るための現実的な数値

総合的な所見(自己評価の総評)

5月にコロナの感染症法上の位置づけが2類から5類になり、さまざまな活動がすこずつ元にもどってきたが、漸く年が明けて集客を含め以前のような活発な状況が見えてきた。パワハラ防止法が義務化されたことを受けて、東京芸術劇場ではハラスメントガイドラインを定め5月から運用を開始。職員だけでなく、委託会社はじめ創作現場にかかわる全ての人たちが安心して仕事ができる環境を整えた。事業内容としては、野田監督の「兎、波を走る」や、「エブリ・プリリアント・シング」「天翔ける風に」「勸進帳」「インヘリタンス」の地方館上映や、オペラ「こもり」の国内共同制作など、地方劇場と活発に交流した。また、キッズ向けの取り組みや、鑑賞サポートの充実など、公演を多くの人たちに広める取り組みも充実させた。また、海外との交流では、2021年に計画していた「太陽劇団」の招聘が叶い、日本の舞台芸術界に大きな感動を与えた。また、「東京文化戦略2030」に沿って、「区市町村等との連携」「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー」、館を複合的に使った大規模フェスティバルの実施、「海外ネットワーク形成」、11年目となる制作人材を育成する「アーツアカデミー」、水天宮ビートの継続運営、「キッズ・ユース・プロジェクト」については、来年度の体験型の取り組みに向けて準備をするなど、政策連携団体としての役割を果たした。事業すべて計画に沿って実施、また、予算も達成した。

外部評価 評定結果	総合的な意見(総評)
A	<p>○劇場の自主事業において質の高い芸術文化を創造することに加え、提携公演のプログラミングによって劇場の活動の幅を広げるとともに、企画や広報面、教育普及活動等の新たなチャレンジを果敢に行うことによって、新規顧客の獲得にも積極的に取り組んだ。22年ぶりの『太陽劇団』来日公演の成功も特筆される。地域の公共劇場との提携による東京公演の実施や若手アーティストへの支援でも大きな成果を得た。館を複合的に使った大規模フェスティバル(複数)の実施や海外ネットワーク形成で独自性を発揮した他、人材育成や多文化共生プログラム、インクルーシブ事業など、社会的に必要な性が高まっている課題にも積極的な取り組みを行った。</p> <p>○安定した事業展開、音楽と演劇、展示、地域との連動事業等の面における企画の多彩さは、高い評価を得るに相応しい。あまりに手を上げ過ぎて大丈夫かという危惧も……。コンサートホールと劇場の雰囲気も基本的には良いが、コンサートホールのロビーの雰囲気はもう少し明るく、柔らかいものにならないだろうか。</p> <p>○芸術のミッションに沿った質・量ともに高い各種事業の実践により、目標を上回る来場者・参加者の高い満足度を達成し、数々の受賞も得ている。SNS発信による広報努力では、Xフォロワー数は、100,924と全国公共劇場の中でも最上位を堅持するなど、芸術への期待も高いことがうかがわれる。国内外のアーティストや他館との共催・共同制作などの連携事業も効果を奏した。また、公共劇場としての地域の賑わい創出、若手アーティスト支援、インクルーシブ事業、新しい観客の創出への取り組みにも努め、大きな成果を上げている。</p> <p>○東京芸術劇場は大変良い施設で、池袋西口エリアにとっておへそのような場所である。客数や治安の向上にも繋がっている。今後、機会があればホールを使用したイベント等も視野に入れながら協働でやっていきたい。</p>

A: 目標を十分に達成し、成果を上げている
 B: 目標を概ね達成している
 C: 目標を十分に達成しておらず、改善が必要である